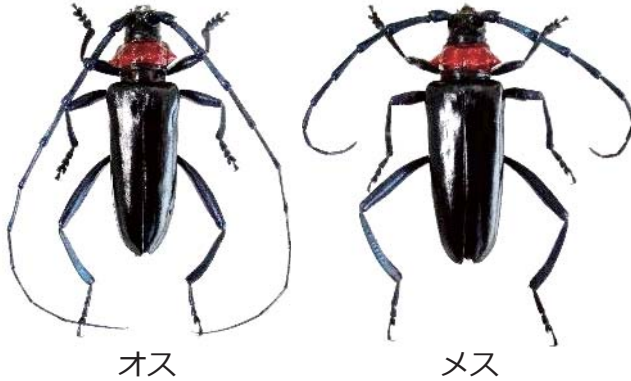


クビアカツヤカミキリ対策強化講習会 資料 1

～クビアカツヤカミキリの概要～

1 基本情報

■ 形態と特徴



オス

メス

概要

- ・ 中国などを原産とする外来生物
- ・ 幼虫は生きている木の中を食い荒らす
- ・ 「特定外来生物」に指定されている

	特徴
体色	全体はツヤがある黒色 胸部（クビ）が 赤色
体長	2～4cm (触角を除く)
その他	独特の臭いを放つ オスは触角が長い

特定外来生物とは

環境省が指定する、生態系や農林水産業などに被害を及ぼす外来生物。

法律により、**飼育**や**生きたままの運搬・販売・野に放つこと**などが**禁止**されている。

サクラ、ウメ、モモ、スモモ、ハナモモの木を食い荒らし、枯らしてしまいます。
枯れた木は、**枝が落ちたり、倒木が発生するおそれがあります。**

■ 問題点

サクラ、ウメ等に寄生し、木を弱らせ、枯死させる

サクラなどの観光資源・文化財やウメ、モモなどの農作物に大きな影響を及ぼす。
日本には、多くの場所にサクラが植えられているため、拡がりやすい環境がある。

高い繁殖力

産卵数が非常に多く、1匹のメスが**1,000個以上**産卵した事例も確認されている。
成虫は木から出たあと、すぐに交尾して産卵することができる。

幼虫が木の内部で育つ

外見から被害が分かりづらく、気が付かない間に木が衰弱し、枯死するおそれがある。
木の中の幼虫の駆除には、農薬や道具などが必要となる。

2 クビアカツヤカミキリの確認方法

■ 成虫（6月から8月、特に7月上～中旬に発生）

- ・ 日中に活発に活動する。動きは素早く、危険を感じるとすぐに飛び立つため、見つけたら踏みつぶすなど**その場で駆除**する。

■ フラス（4月から10月）

- ・ 幼虫は木の中を食い荒らし、「フラス」と呼ばれる排出物を**大量**に出す。
- ・ フラスは、木くずと幼虫のフンが混ざったもの。



■ クビアカツヤカミキリのフラスと間違いやすいもの

コスカシバ（ガの一種）のフラス

- ・ 木くずは少なく、粒状のフンが多い。
- ・ サナギの殻（白色円内）が見つかることがある。



アリが作る蟻道

- ・ 細かい木くずなどで作られている。
- ・ 内部にアリがいる。



他のカミキリムシのフラス（一例）

- ・ フラスの形状が異なる。
- ・ 木くずが**繊維状**（水色円内）である。



3 被害写真



食害で枯れた木の断面

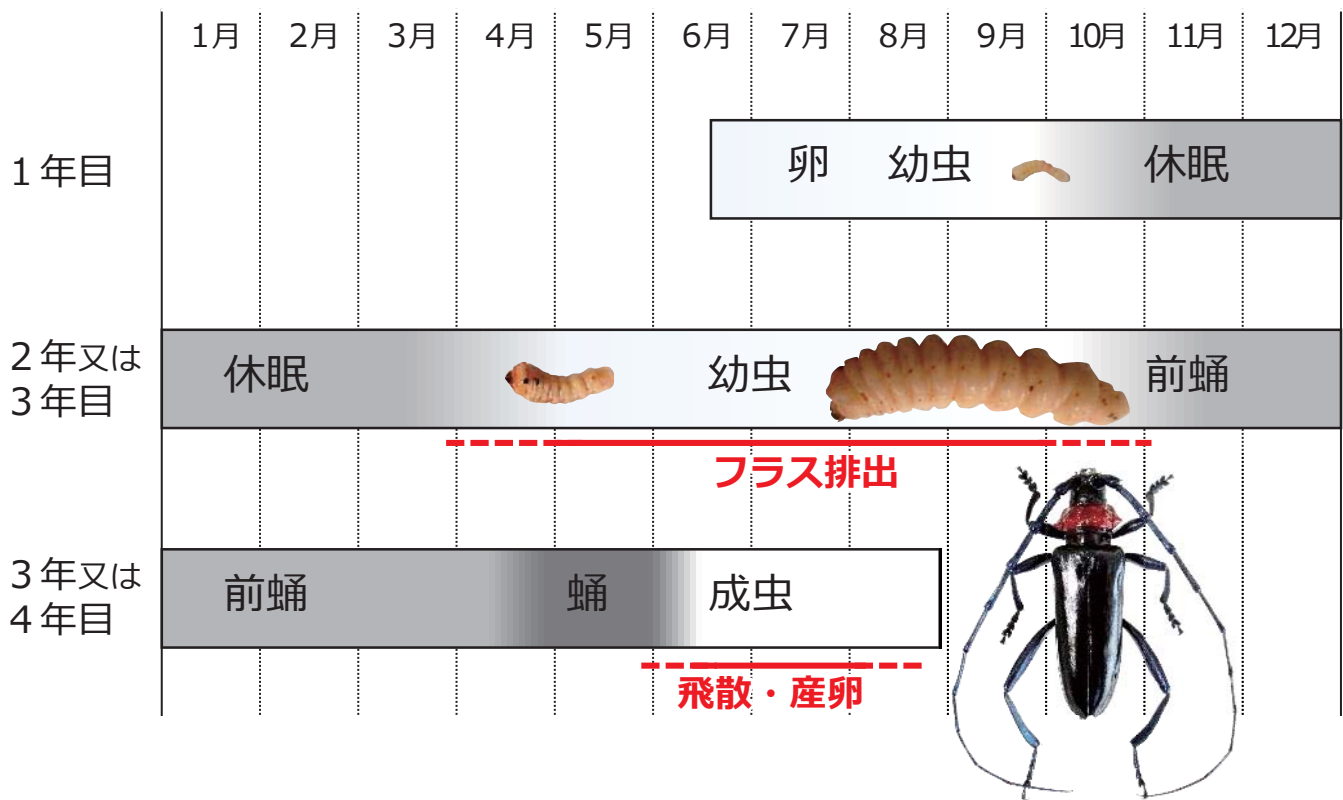


幼虫が空けた穴から出る樹液

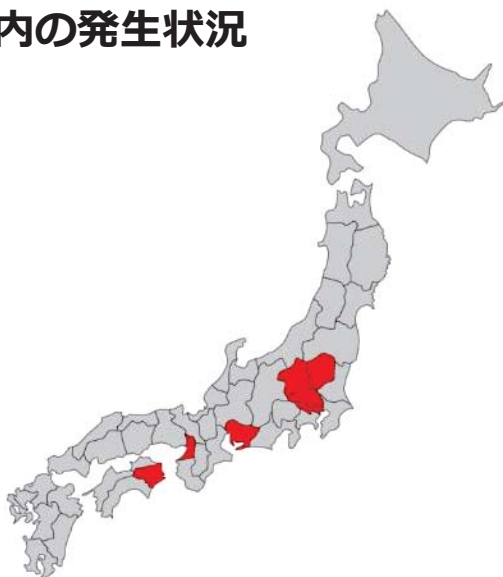


衰弱し、折れた枝

4 クビアカツヤカミキリの一生



5 国内の発生状況



都道府県	初確認年
愛知県	平成24年
埼玉県	平成25年
群馬県	平成27年
東京都	平成27年
大阪府	平成27年
徳島県	平成27年
栃木県	平成28年

6 県内の発生状況

■ 被害状況調査結果

- ・ 発生を確認した市町村は7市町（太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町）
- ・ 平成30年度の被害本数は1,510本（前年の約2.2倍）
- ・ 平成30年度の被害樹種の約7割はサクラ
- ・ その他の樹種は、ウメ、モモ、スモモ、ハナモモ

平成29年度

市町村	被害箇所数	被害本数	被害樹種	
			サクラ	その他
太田市	3	5	5	0
館林市	68	219	170	49
板倉町	4	4	3	1
明和町	28	123	58	65
千代田町	3	47	47	0
大泉町	17	105	103	2
邑楽町	24	179	168	11
合計	147	682	554	128

平成30年度

市町村	被害箇所数	被害本数	被害樹種	
			サクラ	その他
太田市	38	164	56	108
館林市	90	496	390	106
板倉町	19	33	32	1
明和町	32	311	108	203
千代田町	16	120	120	0
大泉町	32	194	186	8
邑楽町	28	192	181	11
合計	255	1,510	1,073	437

■ 発生地点の拡大

